

# 外国語

外国語科では、資質・能力の育成に向け、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、教員が生徒の指導と評価の改善に活用することができるよう、「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標（以下CAN-DO リスト）を設定、生徒と共有し、ICT等を活用して言語活動の充実を図ることが大切です。

## 外国語科の授業づくりのポイント

- CAN-DO リストを効果的に活用した指導と評価の充実
- コミュニケーションを行う目的・場面・状況等が設定された言語活動の充実
- 言語活動の充実や生徒が自己調整を図るなど、目的が明確な1人1台端末等の活用

## □ 「CAN-DO リスト」の効果的な活用

指導と評価の一体化を図るためには、学年のCAN-DO リストと単元のCAN-DO リストで重点を置く領域を確認することが大切です。

単元のCAN-DO リストと単元を通して取り組む言語活動、単元終末または後日実施するテストが正対していることを確認しましょう。

単元の指導が終わってからテストの方法や評価規準を決めていませんか？

指導したことを評価する、評価することを指導するためには、最初に目標と評価を決定し、そのための指導内容を確認することが大切です。



単元の最初に単元のCAN-DOを確認し、端末等に自己目標を入力します。単元の途中で振り返り、自己調整を図ることができます。

CAN-DO リストや評価についてもっと知りたい  
⇒「Can-Do形式の学習到達目標作成とその活用」  
YouTube mextchannel



学年のCAN-DO リスト

「書くこと」における第1学年の目標  
自分や身の周りの人物、身近な物事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介する文章を書くことができる。

単元のCAN-DO リスト

単元の目標  
学校ホームページのアクセス数を増やすために、他の学校を紹介するメールを読んだり、学校行事や部活動等について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いたりすることができる。

単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人称及び現在進行形の特徴やきまりを理解している。 ・学校行事や部活動等について、現在形、現在進行形などの簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。	学校ホームページのアクセス数を増やすために、学校行事や部活動等について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	学校ホームページのアクセス数を増やすために、学校行事や部活動等について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

※実際の評価に当たっては、他の領域（「読むこと」など）の評価規準を設定することも考えられる。

言語活動

単元を通して取り組む言語活動（まとまりのある文章を書くための活動例）

- ・学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書く活動
- ・身近な話題や生徒の体験について、手紙や電子メール、新聞の投稿欄などの形式により、自分の考えや気持ちが伝わるように文章を書く活動

単元のCAN-DOを評価  
(CAN-DOの達成状況を把握)

ペーパーテスト・ワークシート

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」を参考に作成

## □ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等が設定された言語活動

言語活動は、**実際のコミュニケーションの場面とするために、目的、場面、状況等を設定することが不可欠**です。また、「書くこと」領域に重点を置いた単元でも、4技能5領域を総合的に育成するという観点からも、読んだことについて事実や自分の考えを話したり書いたりするという領域統合型の言語活動に取り組むことが大切です。

「授業は英語で行うことを基本とする」とは、英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えることを意味します。**教師の英語使用が生徒の英語使用を促す**という意識をもって生徒と積極的に英語でコミュニケーションを図ることが大切です。

言語活動についてもっと知りたい  
⇒R5全国学力・学習状況調査  
授業アイデア例



## □ 目的が明確な1人1台端末の活用

外国語科においては、音読やスピーチの練習等の音声面の活用や、言語活動において思考を整理するマインドマップの作成、遠隔地のネイティブ・スピーカーとのやり取りなど、教師が使用方法や場面を指示するだけでなく、生徒が自己目標と現状を振り返り、端末をどのように活用するかを決定するなど、**生徒自身が目的に応じて使用場面を決定することも大切です。**

端末の活用が評価材料の記録に偏っていませんか？  
端末から生徒一人一人の取組状況が分かることから、随時フィードバックをしたり、学級全体で困りを共有したりするなど、指導に生かすことも大切です。



デジタル教科書についてもっと  
知りたい  
⇒学習者用デジタル教科書の活用  
による指導力向上ガイドブック

